方城

第六號　第六卷

発行所
方城村公民館
方城村図書館
編集発行人
荒木良和
印刷所
冷牟田印刷合資会社
八幡市折尾町国道筋

優良町村表彰祝賀式

本年一月三十一日本村が福岡県唯一の優良町村として全国町村長会長より表彰をうけ、六月十五日には福岡県町村長会長より表彰されたが、農繁期につゞく七月水害、八月は炎暑の候とて延び〳〵になつていた祝賀会も、九月二十五日伊方校講堂に於て挙行せる処、村内外来賓三〇〇名の会同を得て非常に盛会であつた。式は太田収入役の開会の辞、国歌斉唱松井村長謝辞、倉石議長挨拶、高津助役の村勢概要報告に次ぐ記念品として福岡大丸デパート調製の手拭を各戸一枚宛駐在員に伝達、香月田川市長、岡崎町村長会長、井上地方事務所長、鶴我郡議長会副会長、方城炭砿所長の祝辞あり、野田参議、平井代議士、杉本知事、吉田県町村長会長の祝電披露、岡崎会長の方城村万歳、荒木教育長の閉会の辞あり式を終了したが、参会者は再度方城村の置かれた位置を認識し覚悟をあらたにした。

議会報告

議会事務局

八月定例議会は八月九日より三日間開会、左記案件を議決した。

一、昭和二十八年度方城村歳入出追加予算案

追加額　六・三七〇・八八〇円
累計　四四・三三六・三三九円

二、昭和二十八年度方城村国民健康保険歳入出追加予算案

追加額　七九・〇二〇円
累計　三・〇一五・三〇〇円

三、方城村職員定数条例一部改正の件

中央保育園保姆一名増員

四、方城村基本財産積立に関する件

英彦山郡有林売却代金
四六四・八〇〇円を村基本財産に積立

五、方城村国民健康保健税条例一部改正の件

所得割　百分の二〇
資産割　百分の二二
被保険者均等割　一〇〇円
世帯平等割　二七〇円

六、昭和二十八年水害国庫補助一時つなぎ融資借入の件

七〇〇・〇〇〇円

七、寄附持納の件

三・〇〇〇円　公民館事業え
広太　高津寿政氏
一〇・〇〇〇円方城村遺族会旗代
八幡町商業者一同
五・〇〇〇円　中央保育園
炭砿五区　林　勝氏
五・〇〇〇円　遺族会え
炭砿五区　林　勝氏
五・〇〇〇円　社会事業資金
炭砿四区　岩見マツ氏

公民分館研究会感想

公民館　辰己半蔵

本日の研究大会参加者は約二〇〇名その中京都郡青年団協議会員二十八名参加され、村内の各階層からの出席でひときは意義深いものがあり盛会であつたと思はれる。

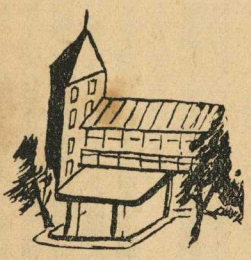
館長の挨拶の中にもあつた様に此の研究会は独り上弁城分館のみの大会でなく、村内全分館の研究大会でもあり、公民館活動は永久に進展しつゝ終るものでもなく、そうして刻々と生長して行くものであり、本日の成果は必ずや何らの形で表現されるものと信じて疑はない。又荒木教育長の挨拶の通り、今迄教育と云へば学校教育のみ偏し、私達は家庭教育即ち社会教育を等閑に附していた感があつた。平和な村造りは此の社会教育が基であることに付いての感銘を参加者に与へたものと思はれる。

青年部の発表に於いては今少し説明が足りなかつた様に感じたが、或は不馴れの点もあつたと思う。集会等に於いて自己の意志を最高度に表現するまでの努力と、その機会を是非作りたいものと思う。特に女子に付いては必要である。

討論会は司会の私が全くの素人で成果を期することが出来なかつたが、必ず此の取返しの為に報ゆる決心である。メンバーの討論は概して良好と思はれるが、生きた声としての音量がほしかつたと思う。

社会課長の評価は私達にとつて今迄心の一隅にあつた疑問を温い理解の手で握り出して貰つた心地で感激に堪えないものがある。

公民館活動の振興は各々の層に自己を没入して共に意見交換と理解の為の討議・反省・協調等により心の琴線にふれ合うものを見出すことであると思い、私達その職にあるものは尚一層の自覚のもとに課題即ち問題に飛び込んで行かなければならないと、深く自責の念に駆られ無力を申訳のない事と思つた。



方城村商工業の現状とその発展策

満井源吉

方城村の地図を開いてみるまでもなく、当村の特異性はその尨大な鉱業人口にある事は云う迄もあるまい。勿論農村部購買力を過少評価する事は危険であるが、方城商工業（主として商業）の発展過程を考察する時その繁栄が炭鉱の興隆に比例して来た事は異論のないところである。

方城村の産業を大別すれば鉱業と農業に分けられるが、その世帯数に於いて前者は一・二四五世帯、後者は七二七世帯（いづれも廿五年十月一日現在）で如何に農業に於ける実働人員を過大に見積つても、当村商業の鉱業労働人口に対する依存度が非常に高い事がうなずけると思う。

当村商業の盛衰は鉱業の興亡に一致するとさえ極言する事が出来るかも知れぬ。地理上の不利―近在の集散地、中心地たる条件に欠けて居ると相俟つて、若し遠い将来鉱業がすたる様な事態が到来すれば、当村商業も企業として成り立つて行く事が非常に困難になるに違いない。

さて遠い将来の事はさて置き、当村商業の現況をかえりみる時、少からず不満のあるのは筆者のみではあるまい。最近個々の店舗は見違える程美観を呈して来たとは云え、未だ街全体としてみる時、消費者を魅惑し買物を楽しませるに足るだけの一個の商店街としてのまとまり、魅力或は雰囲気に乏しいのは何故だろうか

各店舗の店頭並に店内の装飾・照明・或は宣伝に対する更に積極的な意欲がうながされねばならない。が、同時に経営者の気附かない、その店の盲点を商店装飾の専門家を招いてたゞすのも無意義な事ではあるまい

村当局並に村議会に若し切実に商店街の発展を助成する念願があれば、その実費を負担する位何事でもあるまい。みす〳〵当村に落つるべき金のほゞ三〇％乃至五〇％を他町村に逃して居る現状は、商業従業者ならずとも残念な事ではあるまいか。

更に魅力ある商店街としての雰囲気を減退させるものとして、商店としてゞはなく住宅として使用して居る家屋の多い事も一つの原因であろう

街全体が商店として美しく装飾し、鈴蘭灯でもつけるならば、商店街として随分魅力を増し引き立つ事であろうと思うのであるが、これは大変実現困難なことに個人の自由に関することゝて望み薄な事柄である。

それから税金対策、之も大いに考究を要する事柄であろう。大多数の店は青色申告を実行して居るのであろうが、徹底して合理的な納税をすると云う事は今後ますゝ販売競争の激化する折から、他町村商店街との競争に打勝つ重大な要素として指摘されねばならぬ。

「良い品を安く」との平凡な事柄が販売競争に打勝つ第一項であるが、

大福帳式帳簿では常に安く売れば税金が払えないと云う不安が伴う。ところが安く売れば利益が少なければ税金はそれ丈け少く払うのが当然であるし、この当然な事を正当に税務署に認めさせるに足る丈けの正確な記帳を常に実行して（之はなかなか困難な事ではあるが）おく必要があろう。そして大福帳式な頭割的課税方式を適用される事を避けて、自主的に利益の多少に比例して税金の多少を決定し、納税する事が大切であろう。若し之さえ実行出来れば、いかなる競争にも十二分に堪え得よう以上多く理想論に傾いて文を終つたが、吾々は常に理想を描き、それを一つ〳〵実現して行く丈けの勇気と忍耐を持たねばなるまい。でなければ現実は一歩も前には進む事はあるまい。

公民分館研究会追憶

公民館

爽涼の期十月十一日公民館及上弁城分館共催のもとに、公民分館研究会を開催したが、五月に於ける研究会より二回目だつたので、内容も充実し今後の分館運営中特に青年団活動に期待される点が多々あつた。

会は盛大に開会され県社会教育課長鈴木健次郎先生、出張所社会教育課松本先生の臨席を仰ぎ、上弁城分館と来賓各位の教養の向上、社会福祉の増進に寄与しようとする愛村の熱心な気持によつて二〇〇名の出席を見、会を有意義あらしめた。

左に大要について述ぶ

一、開会の辞

上弁城分館の活動目標の把握を目的に、その研究大会を開催するに当り公民館長初め教育長・各分館長及び幹部各位の熱意により多数御参加をいたゞき、盛会に実施されますことを感謝致します。私達は今後益々分館活動に全力を傾倒致します。

二、公民館長挨拶

本館と上弁城分館共催により昭和二十八年度分館活動の基本方針樹立と、目標把握を目的とし併せて全分館に一大刺戟を与え、その活動の積極性を目途に地域社会の課題・研究発見に資し、反省の中から文化の香りを求め、生長に貢献する為研究大会が開催されたのであります。

私達の日常生活にはPTAの会合・公民館主催の講演・研究会其他の集会等、幾多の会合に接するのであります。この様な集会等に出席し参加することは社会生活上極めて重要な事であり、又私達の務の一つであると思うのでありますが、本日かくも多数御参加をいたゞき主催者として感激に堪えません。

公民館活動も年々活発となり、各位の積極的意欲により近年長足の進展を見ました事は同慶の至りであります。然し乍ら私達の周囲には、その発展を妨げる幾多の悪条件が迫つているのであります。

即ち経済不安・思想の対立其他数々の障害が私達の前にありますが、之等に負ける事なく尚更強く立上り、公民館活動により以上の御努力を願い度いのであります。かゝる時期に本日の研究会は真に意義深いものがあると信じます。私達の豊かな住みよい郷土建設に尚一層の御努力をお願いします。

三、教育長挨拶

今回の研究会は社会教育の在り方について実際に研究し、特に青年団運営にその示唆を得ることを目標としているのであります。

本日は京都郡青年団協議会長外二八名公民館視察のため来村され、この研究会に参加を願いましたので、午後の討議に於きましては真剣なる意見の交換があるものと期待致します。その中に必ずや団の運営に貴重なる目標が見出されることゝ信じて疑はないのであります。

惟いますに各年齢層の思想や意志相当なる隔りもあり、之等もその発展に支障を来す結果ともなつているのであります。が、本日の研究を意義あるものとすべく最後迄参加をお願し分館運営に御協力をお願い致します。

四、分館長挨拶並運営概況

本日研究大会開催に当り公私共御多忙の処、多数御参加下さいまして当分館全員光栄に存じます。

上弁城分館の活動も幼稚なる現状で概況等を説明する何物もない貧弱な内容で誠に申訳ありません。今後皆様方の御鞭撻を御願い致します。

当分館の位置は本村の北端で、その周辺に人家が点在している小部落であります。東北には福智連峰が聳え西南に筑豊炭田を眼下に眺め、お互に働きながら自然の美しい情緒に包まれた恵の地に生きる事を全員感謝しているのであります。

当分館としては青少年の不良化問題に於きましても、以前より事件の発生もなく、老若男女共々に村造りに協調し、供出・納税等は毎年成績良好で、村当局から表彰を受けた事も多々あります。

然し社会の進展を考察する時、唯之のみでは時代に残され、郷土の発展を図ることは困難と悟り今後の目標把握に切実なるものを感じて居ります。

現在の主なる事業としては造林であります。又道路の補修・水溜池の管理或は講習・修養の会其他明朗な部落建設のための行事を実行して居ります。

五、青年部の発表

1団の運営の方針

社会教育法に基き団員の教養・向上・健康の増進・情操の醇化を図り・生活文化の振興・社会福祉の増進に寄与する。

2会計報告

3教養部

教育文芸・芸能・視聴覚・読書・趣味の各グループをつくり、お互に意見の交換と反省により人格形成に努力している。

4レクリエーション部

知的の向上、体育の増進と心の慰安に数々のレクリエーションを若人達の集りで実施している。

5産業部

農事研究・害虫駆除・園芸講習・特に開墾に主力を傾注している。

六、全体討議

議題「青年団の活発なる運営方針討議の方法、パネル・ディスカッション」

1青年層と壮年層との思想・主義の一致を如何にするか。

荒木　実際問際でも心理的にも相異がある「ズレ」がある。会合の場合でも意見の「クイ違い」がある。

川井・井上　青年と壮年とよく話合う事が必要、青年の行動に対して壮年の理解と信頼を俟つ。

永末　壮年層に啓蒙運動をせねばならない。

川井　青年の行動の内、大半は間違のある事は当然であるが、之を阻止する事が困難である。思想の一致に近ずけてゆく。

辰巳　話合は壮年が青年の身になつて話合う、イデオロギーについてお互歩み寄る事に困難。

2青年団の活発な運営方策について

荒木　青年団活動は父兄の援助（資金面）をお願いする。

井上　女子団員の活動を活発にする。

原田　父兄の理解を必要とする。

青年は新しいものを求めようとする。

井上　職業差異があるので会合に出易い方法を幹部会によつて考える。団員を自覚させるのは、幹部の勉である。

川井　団員の自覚が足らぬ。

原田　行事が男子本意である。年齢相異がある。

3青年学級を如何にすれば充実し永続出来るか。

井上　団自体が要求するものでなくてはならぬ。団員の与論の結果による地域差があるから課目も異る。グループ活動の延長であること。

永野　青年学級の使命を弁える。

4一般参加者の意見

中山（英）青年幹部の指導の熱意と壮年層との会合をもつこと。

柴野　父兄との話合の機会をつくる事に感銘す。日頃の生活を両親に話す習慣づける。

荒田　青年層の特色・特技性を勘案し、壮年層との相通する点を見出す努力と感謝の念を持つこと。

杉原　形式的でなく充実した収穫のある運営を必要とする。

中尾　親を集めて理解を求める会を開く。

七、社会教育課長の評価

社会教育の目的は、生活の当面している利害関係等を打開することである。

米国の例

上弁城青年部の活動

1日常生活の種々の問題を単的に解決する。
2新しい希望を見出す原動力としての教育
3社会人として必要な知識としてインフオメーション活動に努力
4村人として守る可き事の教育。
5レクリエーツヨン・センターとしての教育

△右の様な教養・文化・情報・宣伝等・智識・技能を学ぶことが社会教育であり、之を実施するのが公民館である。

△社会教育の課題
郷土の課題としては欠点と弱点とを見付けて振興計画を樹てる

△公民館の三つの要素
1文化施設として郷土民の常時使用出来る場所。
2凡ゆる文化活動をしているが纏めて与論をつくる。
3集合場の設備（机・椅子等）大人でも使用できるもの

以上

皇居奉仕に参加して

高津・永末

偶然の機会から皇居奉仕団の一員に加えられ、八月二十二日から二十四日迄の三日間日本国民としての真情と誠意を捧げる機会を得た事を望外の幸に感すると共に、その感想の一端を述べて見たいと思います。

二十日十六時二十三分、東都の表玄関東京駅につき、福岡県人会の出迎えを受けて東都えの第一歩を懐しい福岡県の人から迎えられた事は、何とも云えぬ心強さだつた。翌日の夕方歓迎会をして頂き在京有志からの心尽しで和やかな一席を設ける事が出来た。

奉仕第一日、内桜田門から参入してお車寄せにて事務官の挨拶と指示があり、私達の班は大膳職の手伝を頼まれ、愛知県の婦人会の中の八名と共に事務官に伴はれて大膳寮に来、室内に入りその華麗さを想像せしに全く質素そのものにて此処で陛下の御日常の食事を作られていると聞き国民として誤つた宮城観を深く省みさせられた。豪華な食器類も拝しましたが、之等は外国や日本の使臣等と食事を共にせられる時のみ使はれるので、平素は国民と共に生活せられる思し召しの程を受けたまはり恐縮致しました。

大宮御所からの食器類を整理するのが私達の仕事にて、午前中で予定の仕事を終り、午後からは吹上御苑の御文庫から宮内庁の表御座所への散策道を、陛下が那須の御用邸へ御出ましになられて不在中なので補修を依頼された。此処は陛下の専用道にて道の右側は陛下自ら生物学研究のため木蔭にシダ類を植えられているので、補修に当つても特に草木を損せざる様注意があり、誤つて庭園係等が抜いたりしていると翌日はそれを必ず御気付きになり、お尋ねになると聴き、一木一草に至るまで生成過程に深い御関心を払はれている事を拝察しました。

第一日は小雨のため昨日の作業は出来ず、旧本丸の呉竹寮の前の雑草刈にて大体奉仕者に依つて清掃の手は届いているものの、広い皇居内の事とて此処は芝生が雑草に埋まつている。

唯今清宮様一人にて本丸の一隅にある侍従官舎にお住いにて、陛下にはお子様の教育にも日本的な躾をお考えの様である。

第二日は午前中宮城内の見学にて案内の事務官によつて陛下の御日常の模様を織り込んでの説明があつた。午後は第一日の道路補修の杭を打ちかえてしまう。余程この作業を重視していたのであろう。自分達だけ特別に紅葉山の百間廊下の残りから庭園・御養蚕室等は農家の収納舎と云つた感じである。

皇居と天皇については、皇太子の教師ヴアイニング夫人の一文を紹介して認識を深めて頂き度い。

一九四六年一月一日の詔書で民衆の思想と政府の政策とのため陛下に押しつけられていた神性を否定された陛下を痛々しいまでに、がんじがらめにしていた飾り物から解放せられた。国民の間に自然に行動される様になつた。工場・学校・病院・孤児院・炭坑を訪問される。そして外部の者に解らない宮廷の言葉でなく、国民の話す普通の言葉で人々にじかにお話しになる。私は皇太子と其の他の御子様方の教師として公の人物としての陛下でなく、私の生徒の父としての陛下を存じあげる稀有の特権を与えられている。極く僅かな程度ではあるが、でも之れまで外人に許されたのと比べれば遥に大きな程度で、私は非常に興味はあるが殆んど知られていない御家族の家庭生活の御仲間に加はつたのである。

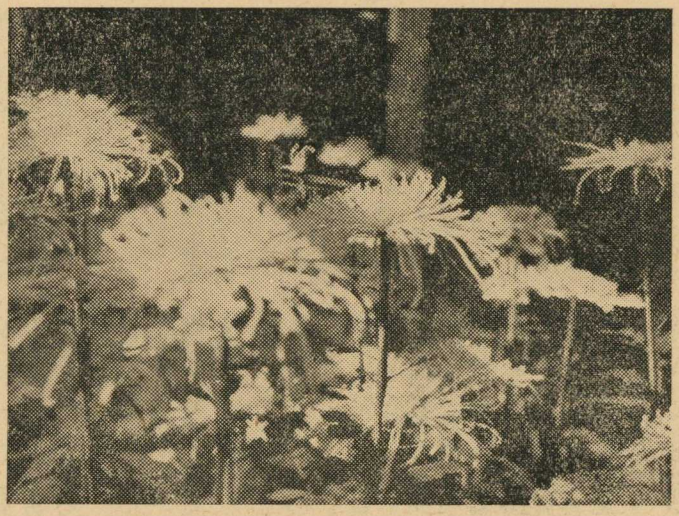
この御家族が純真・素朴・自然で親しみ深く且つ親切であるという事を知つた。

御家族は離れればなれにお住いになつている。皇太子は小金井の学習院の地所の一部に住はれ、義宮は皇居内の質素な洋風の平屋建てに、清宮は旧本丸のかつての侍従官舎に、両陛下は宮殿、戦災後は御文庫と云う防空壕としてお建てになつた感じのよい建物に住んで居られる。

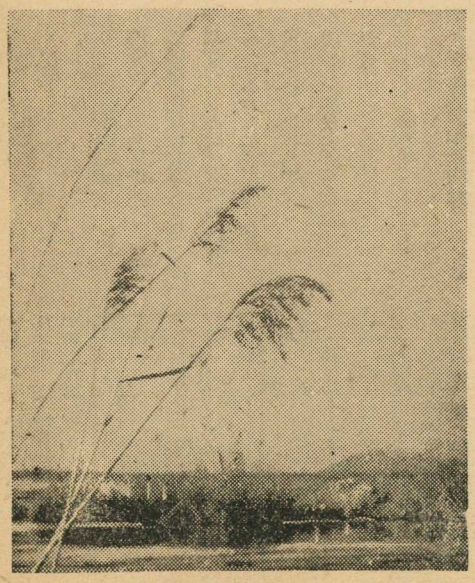
こんなに離ればなれになつて居られるけれども、誠に睦まじい心の結ばれた御家族で時を定めて御一緒にお揃いになつて、楽しくお過しになるのが何よりのお楽しみにて、昨年の夏那須に御家族全部がお集りになつた時、私も何度かお仲間入りを許された。散歩やお茶の席に時々加えていたゞいた。

葉山の御用邸で午餐の御相伴をした事もある。

（つゞく）



＝菊花薫る＝



十一月農事メモ

【麦】種子消毒＝種子伝染の病害を防ぐため次により種子消毒を行う。

① 薬剤消毒＝ウスブルン等の水銀剤を水一斗に対し五匁の割に溶かした液に種子を一時間浸して引き上げ陰干しとするか、風呂湯浸法を行つて芽出し播きを行う。

② 風呂湯浸法＝薬剤消毒を行つたもの風呂湯温度、小麦は四十六度裸麦は四十五度に浸種し、一時間に温度が二度降下するよう調節し十時間後に引き上げる。種子伝染の病害の中には薬剤消毒によらねば防がれない病害と風呂湯浸法によらねば防がれぬ病害とあるから、必ず二重消毒を行はなければならない。

トビムシモドキの被害防止＝田圃によつて毎年小麦の発芽の悪い処があるが、これは主にトビムシモドキと云う小さい虫が発芽当時の芽を喰害するために起るものである。この虫を防ぐには色々な方法が考えられているが、最も簡単な方法は小麦の種子にBHCの粉剤をまぶして播種するが効果的である。

播種期＝種類により品種によつて麦には播種の適期がある。大体十一月に入つてから十二月の上旬までに終ればよい。一般に小麦は裸麦より遅まきによる減収量が少いので、やむを得ず遅まきを行う場合には小麦を用いる。

播種量＝麦の播種の適量は環境によつて左右されることが多く、本地方のように雑草の発生が多く、冬期間降雨が多く手入不充分な処では相当手加減をしなければならない。麦の収量は反当り茎数に一穂粒数を乗じたものであるから、一定の収量を得るためにはそれに相当した茎数を確保しなければならず、そのため分ケツを制限する要素の多い処、例えば播種期が遅れたり、少肥栽培、管理が充分なされない場合、土地が肥沃でない場合、雑草の発生が多い場合、気温が低い場合等は播種量を増加しなければならない。

播種法＝まき方には色々あるが本地方には雑草の発生が多く、冬期間降雨が多いので雑草の発生をおさえる管理例えば土入れ・中耕等が出来ない。従つて雑草に対処する播種法が考えられなければならない。昭和二十五年上弁城に於いて播種法の試験を行つたが、これによると中耕・土入れが簡単に出来、従来の広巾まきより収量のあがるのは縦条まきであつた。条まきには色々あるが四尺五寸位の畦に三条まきか五尺以上に四条まき程度がよいと思う。

肥料＝施肥量及び施肥法については昭和廿八年秋肥として田川地区農業改良普及事務所が各農家に配布しているリーフレットを参照されたい

【菜種】栽培法は方城村に於ける菜種の作り方を参照下さい。

今月植付けを行う主な蔬菜

玉葱・春菜・高菜・甘藍・チシヤ・フダン草・蚕豆・豌豆其の他

（農業改良普及員）

読書週間

弁城小学校六年　稲富昭

毎日秋晴の好いお天気が続く、すみわたつた青空の下でキツキツと夕もすの鳴き声を聞くと、身も心もひきしまるような思いがする。待ちに待つた運動会も、楽しかつた旅行もすんでしまつた。さて僕らはこれから何をしたらよいだろう。

勉強だ。読書だ。

昔の人は「燈火親しむの候」と言つた。勉強するにも本を読むのも一番いゝ気候である。

僕は読書が大好きだ。漫画から少年クラブ・野球少年などの雑誌類や物語の本など色々と読むが、正直なところ学科の参考書はあまり面白くない。

然し僕はどんな本を読むかと云う事が大事なことゝ思う。なぜなら本によつていろ〳〵な事をおぼえるからだ。

教科書や参考書以外の童話や物語りなどの文学書や社会科の本等を、のんびりと楽な気持で読んで字をおぼえたり、色んな知識を得る事が大切である。

僕らは本を読むことによつて昔の偉人のことや世界の出来事など何でも知ることが出来る。

もし本がなかつたりなかつたならば、僕らの頭はちつとも進まないだろう。

世の中の文化も進歩しないだろう。

僕らの村や日本の国をもつと住みよいりつぱなものにし、世界の文化におくれないようにするためには、大人も子供も一人〳〵がもつと読書しなければならない。

此の文を書いていると窓の外で秋の虫がさかんにないている。ちようど勉強せよ、勉強せよと云つているように聞える。

子供会

二区　北村克己

僕達二区分団では子供会とゆうのが生れました。僕達はこれで悪い事をふせぎ、みんなが楽しく暮そうとゆうためにつくられたもので、一日・十五日の月に二回午後六時に始まるようになつています。僕たちはこれで一年間を楽しく暮し、夏休もりつぱに過したが、このあとも、づつと続けていきたいと思います。そしてこの地区のりつぱな伝とうにしたいと思います。ちかいや・やくいんもきめられています。りつぱなバッチも作つてもらいました。バッチはとてもよくて、よそのバッチよりも、ずつといいものです。それにたいしてはづかしくないように、りつぱな行いをして地区を作りたいと思います。

子供会

みんな楽しい子供会
僕等のつくつた子供会
地区をりつぱにしなくては
僕等のつとめは、はたせない
みんなやろうよ、がんばろう
苦しい時は助け合い
うれしい時はよろこんで
みんなでつくろう子供会

十月中新刊書

著者名	書名
堀内　輝三	読書のあとで
高垣寅次郎	体系金融辞典
安田徳太郎	風俗の歴史（第二巻）
〃	〃（第三巻）
サスペンス・ノベル	宇宙戦争
エドワード・R・ステチニアス	ヤルタ会談の秘密
平林広人訳	世界少年少女文学全集（二十一巻）
和歌森太郎	人類科学（五巻）
田村　吉雄	秘録大東亜戦史マレー・太平洋島嶼編
芥川龍之助	昭和文学全集二十巻
石坂洋次郎	〃　二十一巻
吉川　英治	宮本武蔵第一巻
志賀　直哉	現代随想全集第十二巻
武者小路実篤	現代日本文学全集第二六巻
芥川龍之助	世界の現代建築十巻
小池　新二	毎日新聞縮刷版九月号
猪野　勇一	花の生涯（続）
毎日新聞社	
舟橋　聖一	

十月ブツクルーム

利用される図書と冊数

総記…現代用語辞典其ノ他	6	冊
哲学…第二の性	〃 3	
歴史…生きている日本史	〃 7	
社会…秘録大東亜戦史	〃 18	
自然科学…解析精議	〃 3	
産業…農村の生活改善	〃 6	
芸術…日本工芸図録	〃 1	
語学…式辞挨拶演説集	〃 3	
文学…心の影を起ゆるもの	〃 101	
計	148	冊

閲覧者数

官公吏	28	人
炭鑛業	10	
農業	12	
商工業	2	
学生	21	
生徒	33	
其ノ他職	5	
無職	1	
計	112	

盲腸　信子
山中峰太郎　小さき花々
平野威馬雄　原爆機密島
ワツト

◇原稿募集◇

一、論文、随筆、創作、文芸評論何んでも建設的なもの（取捨は編集部に一任）
二、詩歌、俳句、川柳一人二首二句
三、投稿締切　毎月五日
四、投稿先　方城村公民館

編輯後記

△こんどこそは、智能をしぼつて努力したが、何分研究会等行事が多く連続した為、遅延したことをお詫致します。

尚印刷の都合上、二ケ月に一回発行致します。

△原稿がいつも偏在し編集に苦労します。村民の御投稿をお願致します。